

2026年度 文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験
2026年度 スポーツ能力に優れた者の特別選抜入学試験
「法学部」

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

【文芸】

学科	志願者数	1次合格者数	最終合格者数
法学科	1	1	1

【スポーツ】

学科	志願者数	1次合格者数	最終合格者数
法学科	14	14	13

2. 試験内容

オンラインカジノの規制に関する新聞記事を読んでもらい、記事の内容について質疑応答を行った。

3. 出題意図

法学部のアドミッション・ポリシーに従い、事実や他者の考えが書かれている文章の内容を正確に理解し、それに対する自己の考えを論理的に表現する基礎学力を備えているかどうかを審査すること。

4. 評価のポイント

記事の文章を正しく音読できるか、記事に書かれている事実や主張内容を正確に理解し伝達できるか、それらについての自分の意見を論理的にまとめて伝えられるか、の3つが評価の観点であった。

5. 解答状況

文章の音読と新聞記事にある内容の正確な理解・伝達については、多くの志願者が概ね適切に回答できていた。自分の意見をまとめて論理的に述べることについても、多くの志願者が適切、十分な形で説明できていた。

6. 次年度以降の受験生へのアドバイス

法学・政治学は、社会と密接につながっています。たとえば、法学では社会で生じる問題を法律に基づいて解決する能力を身に着けることが求められます。したがって、法学・政治学を学ぶ上で共通して重要なことは、様々な社会問題に広く関心を持ち、その原因や状況、解決策について知り、自分なりに考え、それを言語化できることです。そうすることで、入学後に授業内容をよりよく理解できたり、その後の発展的な学習、研究に繋がったりと、法学部での学びに長く役に立つ能力の

素地を作ることができます。具体的には、①新聞を読むニュースを見るなどして社会に対する関心を広げる。②興味を持ったトピックについて専門的知見により書かれた本を読む。③そのトピックについて問題の状況、原因、専門家の意見を整理して文書でまとめる。①②はインプット、③はアウトプットになります。スポーツでも有名選手のプレイ動画をみたり教本を読んだりするだけで、そのプレイが身につくわけではないように、学問でも読むだけではなく、実践するという作業(③)は非常に重要です。

7. 進路指導上の留意点（主に高校教員向けの入試指導上のポイント）

出題内容にある社会問題について何も知らない、関連する単語を初めて見る、という状態では試験には対応できません。また、その入試はたまたま凌げたとしても、入学後に大変な苦勞・困難を抱えることになります。日頃の蓄積・準備が重要ですので、受験を希望する生徒には、上記に述べたような準備をできるだけ早い段階から自然と行うようにご指導ください。

以上